学校法人豊山学園　天使幼稚園　お父さん・お母さんの子育て支援情報　2025 年 11 月発行

子育てと幼児教育

非認知能力と知能の開発

「頭が良い子に育ってほしい」という願いは、多くの親に共通しています。しかし、幼児期の頭の良さは、テストで高得点を取ることだけを指すわけではありません。ハワード・ガードナーの多重知能理論では、**人間の知能は一つではなく、言語的知能、論理数学的知能、身体運動的知能、音楽的知能、対人的知能、内省的知能、空間的知能、博物的知能の八つから構成されると考えられています。**幼児期は、これらの知能が一斉に伸び始める時期であり、幅広い経験を通して子どもの可能性を広げることが重要です。

まず多重知能の視点で頭の良さを捉え直すことが大切です。例えば、言語的知能が高い子はおしゃべりが上手だったり、絵本の世界に深く入り込んだりします。一方で、空間的知能が優れている子はブロック遊びが得意で、形の違いに敏感です。また、対人的知能が高い子は友だちとの関わりを自然に楽しみます。このように、子どもによって「得意な知能」は異なり、そのどれもが価値のある力です。幼児期の教育では、この幅広い知能を尊重し、子どもが自分の得意を見つけられる環境づくりが鍵になります。

次に、多重知能と非認知能力の関係について考えてみます。非認知能力とは、意欲、粘り強さ、協調性、自己肯定感など、数値で測りにくい心の働きを指します。実は、これらの非認知能力は、どの知能を伸ばす際にも土台となる力です。例えば、音楽的知能を育てるには継続的な練習が必要であり、粘り強さが欠かせません。対人的知能を高めるには、他者を理解し関係を築く協調性が重要です。つまり、多重知能が花開くためには、非認知能力が大きな役割を果たしているのです。

では、幼児期に多重知能と非認知能力を同時に伸ばすにはどうしたらよいのでしょうか。一つは、子どもが自由に選べる活動を増やすことです。自分で選んだ遊びは集中力を高め、内省的知能や自己決定感につながります。また、自然に触れる体験は博物的知能を刺激し、探究心を育みます。さらに、親子での対話や共同作業は言語的知能と対人的知能を伸ばします。

そして、子どもの挑戦や努力を肯定的に受け止める姿勢が重要です。結果よりも過程を認める関わりは自己肯定感を育て、どの知能の学びにもプラスです。多重知能の多様性を理解し、幼児の知能は豊かに育っていきます。【了】

制作　学校法人豊山学園　　発行　2025 年 11 月 21 日
〒480-0202　愛知県西春日井郡豊山町豊場字神戸 178-1
メール：tensiyochien@gmail.com　ホームページ：http://tensiyochien.jp/
お気づきのことなどございましたら、メールでお問い合わせください。